

歯を磨けば命が輝く 歯原性菌血症の怖い話



花田 信弘 (はなだ のぶひろ)

福岡県出身 歯学博士

鶴見大学 歯学部 探索歯学講座 主任教授

国立感染症研究所 口腔科学部長を経て現職。

全国各地の大学歯学部の講師を務める。

第1話 口の中には毒がいっぱい



口の中には毒がいっぱいあります。この毒は人の悪口(毒舌)のことではありません。本当の毒です。人体で最も普遍的に存在している発熱物質は口腔や腸管の細菌毒素です。この毒を内毒素(エンドトキシンまたはLPS)といいます。この毒が口の中で増殖して歯周病、がん、循環器病、糖尿病、関節リウマチあるいは認知症などあらゆる病気(生活習慣病)を引き起こします。

しかし、口の中に細菌由来の毒があることを知っている人は少なく、内毒素血症を引き起こし生活習慣病の原因になっていることは、医学の専門家にもあまり知られていません。本シリーズでは沖繩の皆様に口の中で増える毒の怖い話を6回に分けてお伝えする予定です。「歯を磨けば命が輝く」というタイトルにした理由は強力な起炎物質・発熱物質である細菌由来の毒を歯の表面や口の中から除去することが、長生きの秘訣だということがわかったからです。そのことを沖繩の皆様にお伝えし、もう一度沖繩が長寿日本一の県になっていただきたいという願いをタイトルに込めました。

口の中の毒は勝手に増殖します。毒はからだの細胞に接触すると細胞に持続的な炎症を起こしてしまいます。歯磨きだけがこれを防ぐ方法です。ですから、疫学調査でも1日3回以上歯磨きをする人は、脳卒中などの血管の病気になりにくいことがわかっています。

たった3週間歯磨きを中止しただけで、全身の血液中に最少発熱量の約10倍に値する量の内毒素が確認されるという研究結果が2011年に報告されています。

すぐに発熱しない場合でも、毒が血液に入れば血管は必ず老化が進み、病気になるやすい体になるといえます。

第1話をまとめますと、歯磨きをサボると口の中の毒が血液に入り10倍発熱しやすくなることがわかりました。

口の中の細菌に由来する毒は、局所と全身の臓器に慢性炎症を招き、がん、循環器病、糖尿病、関節リウマチあるいは認知症の発症に関係します。

口の中には毒がいっぱいです。歯磨きをサボりがちだった方は、今日から1日3回以上歯を磨いて輝く命を取り戻しましょう。



長寿日本一奪回!
ウチナンチュ必読!!



鶴見大学歯学部探索歯学講座

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2-1-3

TEL.045-581-1001

<http://dent.tsurumi-u.ac.jp/>



一般社団法人 口腔除菌協会

東京都港区六本木7-17-10

TEL.0120-59-6480

<http://www.kenko-station.jp>